

## オンライン診療の需要増 マイシン、患者登録10倍

2020年6月10日 11:00 [有料会員限定記事]

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、医師が患者をビデオ通話で診察するオンライン診療サービスの需要が高まっている。同サービスを提供するMICIN（マイシン、東京・千代田）によると、5月の新規患者の登録数は1月と比べて約10倍となった。需要の増加を支えるのが、クラウドサービスの活用だ。

マイシンが提供するオンライン診療サービスの「クロン」を使うと、患者は自宅からスマートフォンの画面を通して医師の診察が受けられる。診療所（クリニック）を中心に3500を超える施設が導入済み。新型コロナの影響で、5月に利用した医療機関の数は1月の約6倍に増えた。

サービスを利用する患者や医療機関の伸びに応じてシステムにかかる負荷の増加を、クラウドの活用で乗り切った。マイシンのシステムは米アマゾン・ドット・コムのカラウドサービスで稼働している。通常、自社でサーバーなどを調達する場合、性能を高めるために機器を追加するのに数カ月かかる。クロンでは負荷に応じて性能を高められるクラウドサービスを使い、利用者的大幅増加に対応できたという。

薬局が患者に対して電話で服薬指導をする際に、オンラインで決済したり医薬品の配送を手配したりできるサービスを提供開始した。こちらも開発期間は2カ月未満で済んだ。今後はオンライン診療から服薬指導、医薬品の配送までを一気通貫でできるシステムの提供を目指す。

マイシンの原聖吾代表はオンライン診療の需要動向について「電子カルテと同様に、今後2～3年で約10万ある診療所の3～4割が利用する」と見込む。オンライン化が進むにつれ、医療業界でのクラウド利用もさらに進みそうだ。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

No reproduction without permission.